

科学技術と人間

常務取締役

望月 秀俣

Mochizuki Hideyoshi
Managing Director

20世紀における科学技術の進歩には眼を見張るものがあります。その代表は自動車でしょう。今では一家に1台は当たり前、5人家族の我が家でさえ4台もあります。

19世紀末にガソリン自動車が發明されてから約1世紀、これほど人の生活を一変させた物はないと思います。その便利さは人の行動範囲を拡げ生活を豊かにしたことは確かです。

しかし自動車によって急激に変化した生活の環境、リズムによって人の価値観は変節したと思います。そのため自分さえよければいいという身勝手な振る舞い、今さえ楽しければいいという刹那的な意識など公序良俗をないがしろにする風潮が社会のいたるところに見られるのは残念なことです。

コンピュータも20世紀に進化した技術の1つで、近10年が特に顕著であります。コンピュータ技術のシンボリックな目標はチェスの世界チャンピオンと対局して勝つことでありました。IBMのスーパーコンピュータ「ディープブルー」が世界チャンピオンを破ったと報じられたのは1997年の5月のことでした。この大目標を達成するために克服しなければならない課題は数多くあったと思いますが、最大のもは計算スピードをあげること(並列処理チップの開発等)にあったと思われる。あらゆる局面でも次の一手を3分間程度の間を検討し尽くさねばなりません。例えば平均的に考えられる次の一手(明らかに不必要な手を除く)はチェスの場合約6通りと言われていますが、ディープブルーは平均1秒間に2億通り、最大4億通りまで読む能力がありましたので10手先(6の10乗=3、6億)まで読めたわけです。この蓄積された技術は通信技術と融合してインターネットを普及させ、GUI(グラフィカルユーザーインターフェース)など使いやすさの研究とあいまって、こんにちITとしてもはやされています。当社の通称みなさんネットも1月に250万通のメールが飛び交う新しいコミュニケーション手段として定着しつつあります。コミュニケーション手段としては声も聞こえない、顔も見えませんが、人と人の繋がりや質は希薄になります。またセキュリティの網をぐって悪意を持って他人に嫌がらせをしたり、データを盗んだり、はたまたネットを利用して人を欺くなどの輩もいるのが現実です。ここでも科学技術の発展とともに負の部分があたに顕在化してきています。

コンピュータ技術はデジタルです。デジタル技術は映像の世界でも新たな可能性を生み出しています。映



画大好き人間の私にとっても今までと違った世界が見れるのは楽しみです。99年に話題となったアメリカ映画「マトリックス」は地球が人工知能を持ったコンピューターに支配され、人間はコンピューターが作り出す仮想現実空間(マトリックス)で生きているとゆう設定のストーリー、ここでCGによる新しい形のアクションがみられ奇想天外の面白さがありました。しかし次のような映画もあります。99年の伊賀忍者の物語、日本映画「梟の城」(司馬遼太郎原作、篠田正浩監督)はカメラを遠めに固定し背景のなかに人物を置いて撮る手法が全編を通じて基本となっています。背景になっている家並み、山野等の鮮明な美しさ、衣装(朝倉根さん担当)も1つ1つ非常にきれいです。ストーリーだけでなく映像の美を意識して作った作品として私の好きな映画のひとつです。

21世紀が始まったばかりですが、今世紀の科学技術の主役はロボットでしょう。ソニーのアイボが市販されてペット型のロボットが大流行の兆しを見せています。犬型、人形型、はたまたクラゲ型などあります。それぞれの特徴を持っていますが、見たもの、聞いたものなど学習内容によって、それぞれ違う個性に成長していくのが面白いところです。犬を飼った経験がありますが、ペットの死は悲しい。老年になってそのショックに耐えられるか自信がありません。ペット型ロボットはその心配がありません。さらに進化して話し相手になってくれるものが出現するとたのしいでしょう。二本足で歩く人間型ロボットが姿を見せはじめました。現在ではお辞儀や握手など簡単な事しかできないようです。しかしコンピューターのとくと同様にシンボリックな目標を作って開発の課題を明確にしています。これが国際的なプロジェクト、ロボカップです。2050年にはサッカーのワールドカップの優勝チームにロボットチームが勝つことを目標にしています。人工知能の発達で自分で判断して行動しボールを目標に向かって蹴る事ができる自律型のロボットが完成すれば様々な分野に応用可能な新しい技術をもたらすと期待されます。これからの私の願いとしては、介護を要する御老人や、障害をもつ方々のアシスタントあるいはパートナーとして役立つよう開発に努めてほしい。健常者の生活は現在すでに十分に充たされていて、これ以上に便利な生活は体力、知力を退化させ、人間は墮落していくのではないかと心配されます。科学技術は人間の心を豊かにするものとして今後は使いたいものです。